

KOBE YMCA NEWS



神戸青年

No.638

2015.7・8

July・Aug

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/井上 真二 編集人/田村 光
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

実際に、あなたがたこそ、わたしたちの誉れであり、喜びなのです。
(テサロニケの信徒への手紙 一 2:20)

ボランティア研修会・委嘱式



2015年度神戸YMCAボランティア研修会・委嘱式が、5月17日(日)兵庫県私学会館を会場に行われました。ボランティア研修会では、約70名のスタッフ、リーダー、高校生、社会人が集まりました。福井県立大学教授大利一雄先生の基調講演「ボランティアの今、これから～グループワークの歴史から学ぶ」でスタート

し、約2時間のお話でしたが、楽しい、そして理論で裏づけられるお話をいただきました。そして、午後からは、大利先生の①「グループワークの今、これから」、兵庫教育大学臨床心理士大塚美奈子先生の②「子どもたちの今、これから～トラウマを抱えた子どもたち～」、NPO法人Colorbath代表の吉川雄介先生の③「世界の今、これから～社会人だからできること・国際的な視点～」という3つのセッションから、参加者たちが自ら学びたいこと、興味があることを選択して、受講セッションを決定し、それぞれの学びを深めることができました。一日を通じて盛りだくさんの内容でしたが、多様なボランティアが集まり、子どもたちや社会の中で低くされている人をどうにかしたいという気持ちの中で、つながることができた一日でもありました。委嘱式では、井上真二総主事より地の塩、世の光になれるようにとリーダーたちにお話をいただき、神戸YMCAの各リーダー会代表者に委嘱状と聖書が贈呈されました。

「Celebrate Diversity」大利先生の講演の中での言葉です。異なる人との出会いが違う自分との出会いの機会となる。違う環境に身をおくことで、変化が与えられるというお話がありました。これから来年3月まで2015年度のユースリーダー活動が進んでいきます。多様な人と出会い、関わり、ともに進むことによって、大きくなっていくリーダーたちの一年がまたスタートしております。どうか多くの方々に見守っていただけますように。また、今年度も各ワイズメンズクラブの皆さんのお支えがあり、研修会、委嘱式を開催することができました。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。ありがとうございました。



(キャンピングサービスセンター 坂本孝司)

定期総会開催

神戸キリスト教青年会の定期総会が5月29日(金)午後6時30分から開催されました。加納町会館の建替工事にとまなない、神戸市教育会館で開催されました。

中島正勝牧師(日本キリスト教団 甲南教会)による礼拝でのメッセージは、「誉れと喜びに満ちた出会いと交わり」という聖書の御言葉に心を寄せました。

今年の総会は、2014年度事業概況、2015年度事業方針、監事報告、東日本大震災支援活動、各委員会活動などの報告がなされました。そして、今年もボランティア奨励賞の発表が行われ、YMCAが多くのボランティアによって運動を広められていることを改めて感じる時となりました。

新たな一年も皆様とともに、力強く歩んでまいりたいと思います。



未来への提言

地の塩、世の光

2015年神戸YMCAは、今井鎮雄顧問のご逝去、総主事交代、加納町会館の建設：まさに激動の年を迎えておられます。

学生時代、私は姫路で野外活動のリーダーをしていた関係からYMCAで働きたいと考えるようになりました。当時、姫路は採用枠がなかったのが神戸を希望しました。1975年に神戸YMCAに採用していただき最初の4年間神戸で研修を受け、その後姫路に戻り現在に至っています。YMCAのスタッフとして最初に薫陶を受けたのが神戸YMCAです。この4年間が今も私を支えるエネルギーになっています。職員礼拝やスタッフ研修会、そしてそれぞれの現場で、諸先輩方、リーダーや会員の皆さんと様々な出会いがありました。当時今井さんと近江岸さんから、「地の塩・世の光」の聖書の箇所が何度も語られました。私の神戸YMCAのイメージは「地の塩・世の光」です。

1995年阪神大震災が起きました。神戸YMCAも大変な打撃を受け、職員や会員の皆さんも生活するにも窮する中で、ボランティアセンターを立ち上げ、いち早く救援活動を開始されました。事業も継続されました。苦しいときだからこそ、会員と職員の皆さんが一つとなって復興に尽力してこられました。今年には阪神大震災から20年、見事神戸の街は復興しました。

神戸YMCAに行きますと、草野さんや、今西さん島田さん等、私が神戸にいたころにお世話になった人に出会います。そして40年たった今も元気にボランティアとして神戸YMCAに関わり支えておられることに感動しています。一般的には時代と共に形あるものは壊れ、消えて行きます。しかし、決して壊れない、変らないものがあります。それは神戸YMCAのスピリット「地の塩、世の光」ではないかと思えます。その精神を大切に。神戸YMCAの働きが神様に祝され、ますますよき働きができるようにお祈りします。

姫路YMCA総主事 八杉光春

こども園



2015年4月1日の開園から2か月が経ち、毎日子どもたちの声が響くこども園です。58名全員が新入園児ということで、子どもたちもドキドキしていたことと思いますが、日々の遊びの中でいろんな表情が見えてきました。初めは泣くばかりだった赤ちゃんもクラスの先生との信頼関係が育まれ、笑顔もあふれるようになってきました。YMCAの保育園では3～5歳児は年齢別ではなく、異年齢での保育を行っています。神戸学園都市YMCAこども園でもこの異年齢保育を行っているのですが、自分より小さなお友だちが困っている時に、自然と手を差し伸べるお兄ちゃんお姉ちゃんの笑顔がそこにあります。また、そんなお兄ちゃんお姉ちゃんを見る小さな眼差しには柔らかな安心感が満ちています。毎日の何気ない様子を見てみると、子どもと子ども、大人と子どもの間に、神様が豊かに恵みを注いでくださっているように感じます。まだまだ始まったばかりではありますが、大人も子どもも互いに愛を分かち合いながら、神様から与えられた幼いのちが豊かに成長していくようにと願います。



幼稚園



西神戸YMCAようちえんへようこそ!

幼稚園では、今年度初めて4月29日に園児やご家族を迎える「ウエルカムデー」を開催しました。休日にもかかわらず多くの方々が足を運んでくださり、保育室でのコーナー遊び、体育館やホールでのゲームやミニコンサート、園庭での身体をいっぱい動かす(玉入れ・ドッジボール他)プログラム等を楽しんで頂きました。テーマは「出会う」まだ入園してまもない園児やクラスにまだまだ慣れていない進級児は新しい出会いに戸惑いながらも、当日はハンドブックに示してあるミッションをクリアしながらウォークラリーを楽しんでいました。バスの運転手さんとのジャンケンやバス試乗、こま回しやけん玉…とにかく、色々な人や物、遊びに出会って、触れあって遊んだ一日でした。お弁当持参の時間帯で登園された方は、他の家族の人たちと一緒に弁当を頂く場面も見られました。初めての園生活で、不安を覚えている子どもたちやその保護者の方々が、幼稚園を通して様々な人や物や遊びに「出会う」ことで新たな交わりが生まれ、幼稚園が安心して過ごせる子どもたちの居場所であることを知って欲しいと願って企画した「ウエルカムデー」です。後日、保護者の方々から「参観ではなく体感でき、子どもが幼稚園が大好きと言っている意味が分かりました」と嬉しいお声も聞きました。



私たち保育者にとっても子どもたちの違った姿に出会い、ご家族との出会いを感じた一日でした。

学童保育



浜脇育成センター

浜脇育成センターは3つのセンターがあり、138名の子どもたちが過ごしています。自由遊びの時間になると、子どもたちはわれ先にと外へ飛び出し、おにごっこ・ドッジボール・ブランコなどそれぞれの遊びに夢中になります。特に「なかよし山」というすべり台が二台ある大きな遊具は子どもたちに大人気! 大きなすべり台には、学校のルールで三年生からしか使用することができないので、4月になった時の三年生の反応は、本当に嬉しそうでした。

奇数月の第2水曜日には、お話会があります。これは、西宮市の図書館のボランティアの方がセンターに来て、絵本や紙芝居を読み聞かせてくれる行事です。5月のお話会は、新入所のお友だちにとって初めてのお話会、「どんなお話かな～」と心待ちにしているお友だちも、「どうせおもんないわ…」なんて言うお友だちも、お話会が始まると本の世界に引き込まれていきました。図書ボランティアの方も、子どもたちの表情が変わっていくのが嬉しいと、終了後話していました。地域の中にある、学童保育として、今後も地域の方たちと繋がりをもてる育成センターでありたいと思っています。



もうすぐ子どもたちの待ちに待った夏休みが始まります! この夏も子どもたちと安全に生き生きと楽しく過ごしていきたいと思ひます。

東日本大震災支援活動

リフレッシュファミリープログラム

5月23日(土)、神戸市森林植物園にて、リフレッシュファミリープログラムを行いました。当日は参加者やボランティアリーダーの再会を喜ぶ声で始まりました。

森林植物園では、散策しながら様々な木に触れ、季節の植物や生き物を感じながら、目的地である川に着くと、息つく暇もなく、子どもたちもリーダーも靴と靴下を脱ぎ捨て、川に入っていました。



5月の川の水はまだ冷たいです。みんな「冷たい!」と叫びながらも、石の下に隠れている小さなカエルの夢中になって探していました。そんな中カエルを見つけた男の子。手に乗せ、嬉しそうにカエルを見るその姿はとても誇らしげでした。

園内に落ちていた木の枝や葉っぱ、松ぼっくりなどを拾い、画用紙に貼り付けて大人も子どももそれぞれオリジナルの作品を作りました。画用紙からはみ出るほどの



枝を道に見立て、午前中に歩いた地図を作る親子の姿が印象的でした。その後、芝生広場で思いつき走り回り、リーダーと遊ぶ子どもたち。そのようすを見ながらゆっくり会話を楽しむ大人たちに分かれました。自然の中で自由に過ごすこの時間は本当に貴重で、子どもたちにとっても大人にとってもなくてはならない時間なのだ改めて感じました。震災から4年経った今だからこそ考えるべき課題があります。私たちは、「また来月ね!」と言って笑顔で別れました。私たちにできることはほんの小さなことかもしれませんが、「必ず来月も行くから!」のご家族の言葉に、継続することの大切さを強く感じました。

東日本大震災復興支援活動ボランティアリーダー 赤松 由梨

新会館建築募金(感謝)

(前号掲載以降～5/31現在)

山本毅、大倉正子、ワイズメンズクラブ六甲部、宗行孝之介、山城みなみ、大野勉・智恵、美崎晋、余島キャンプOB OG会、江原伯陽、神戸YMCA社交ダンスクラブ 猪瀬秀雄、三上展、山下修平、渡辺義子、本城智子、豊田めぐみ、(株)グリーンヒルホテル、山根貞夫、林敬子、小野勅紘、河本裕三、宇都宮佳果、為広かね子、高山遵、水野雄二、岡昌代、枝木一郎、前田貴史、小紫富久枝、星加絹代、権甲植、尾上尚司、村田建設(株) (敬称略・順不同)

★★ 個人消息 ★★

- 【ご逝去】 ころよりお悔やみ申し上げます
4/16 板倉由紀さん(神戸学園都市YMCAこども園) ご母堂
- 【ご結婚】 おめでとうございます
5/3 田村麻衣子さん(西神戸YMCA保育園) 菊尾安彦さんと
- 【お誕生】 おめでとうございます
5/25 小澤夏子さん(西宮YMCA保育園) ご長女 葵美さん

感謝・寄付

ワイズメンズクラブ六甲部の各ワイズメンズクラブより
5/17(日) ボランティア研修会および委嘱式の運営費として

第32回 神戸YMCAチャリティーゴルフ

5月13日台風一過の快晴のもと、千刈カンツリー倶楽部にて、第32回神戸YMCAチャリティーゴルフ大会が開催されました。

45名の方々にご参加いただき、交流を深めつつゴルフを満喫することができました。当日参加できなかった方からもチャリティー協力金や物品をいただきました。収益金から諸経費を除いた約221,000円は、神戸YMCA青少年指導者養成支援金として、また一部を東日本大震災の復興支援として捧げさせていただきます。また、会場を提供いただきました千刈カンツリー倶楽部様からも多大な御支援、御協力を賜りました。

大会での募金とは別に「神戸YMCA子ども奨学金」への募金をお願いしましたところ、25,404円のご寄付をいただきました。皆様のご協力に感謝いたしますと共に、このお志がひとりでも多くの子ども達の成長につながるよう努力して参ります。また多数の寄贈品をお寄せいただき、重ねて感謝申し上げます。



<参加者>

井上真二、大江彬甫、大田靖之、岡本繁、尾上尚司、柏原佳子、桂幸生、加藤金行、嘉納洋、黒崎敬三、河野彰、佐々木留奈子、島田恒、島田健吾、清水規裕、清水泰人、下田恵美子、進藤啓介、鈴木博和、武田寿子、竹増操、多胡葉子、寺山正道、堂本将司、中尾英輔、長澤智子、西澤みどり、濱浩一、濱美智子、東谷敏雄、平野仁貴、広瀬一雄、福原吉孝、藤田良祐、堀江裕一、松井隆介、松田福滋、丸山悦治、万本敬一、矢野勇治、山口芳之、山本克己、山本常雄、吉岡智成、吉原尚美、

<募金をいただいた方>

上野恭男、熊谷親啓、阪根新、芝川英美子、国本正男



灯台 No.2

Light House



総主事 井上真二

「夏が来れば思い出す」

淡路島南より4.6kmのところの周囲10キロの漁業の島、「沼島」があります。神戸YMCAは1971年、太平洋の美しい海に囲まれたこの島の魚釣り専用の民間宿泊所を、余島に次ぐ2番目の専有キャンプ場としてつくりかえ、活動を休止する2002年まで様々な団体の子どもたちの成長の場としてきました。私が担当した1989年当時、フレッシュエアテントが9張、食堂兼ホールとスタッフルーム、シャワールーム等、定員80人規模の施設は、夏の間中、子どもたちの笑顔で溢れていました。夏期シーズンのみの運営のため、島民の皆様の理解と暖かい支援があつての活動であり、特にキャンプ場の管理を支えてくださった奥田さんを忘れることはできません。

このような教育キャンプとしては自然豊かな抜群の環境がゆえ、私たち駐在ディレクターの一番の心配事は病気や怪我でした。島には診療所がありましたがドクターは常駐していなかったので、特に夜半、緊急を要する場合は淡路島までチャーター船を出してもらうしか方法はなく、海が荒い時は朝まで待つしかありませんでした。

漆黒の暗闇に浮かぶ灯台の光を見つめながら、波がおさまること、夜が明けることをジリジリと待ちわび、リーダー達と祈りました。大事にはいたらず、無事に保護者に引継ぎ安堵したことは昨日の事のように覚えています。あの時の祈りは、人間の絶対的な小ささと自然への畏怖、目の前の苦難への問いかけと救い、自分の弱さに対するものでした。

この夏も神戸YMCAでは様々なプログラムが行われます。参加して下さるメンバーの皆様はもちろん、それにかかわる全ての方々の安全が守られ、成長の場となりますように祈り願っております。

(沼島キャンプ場は2007年に閉場し、現在はある企業の保養所になっています)

シリーズ じんくわつのもぞむ

41

5月26日と29日に神戸YMCA学院専門学校ホテル学科で「世界一大きな授業」を行いました。「世界一大きな授業」は、2003年に「すべての子どもに教育を(Education for All)」を合い言葉に世界の教育の現状を学ぶ機会を世界100カ国で行われているイベントです。

今回は、「世界の識字率」をテーマに、なぜ、文字が読み書きできないのか？ 識字率が低い国々ではどのようなことが起こっているのかを考えました。「メールができない。標識が読めないから行きたいところへ行き着けない。就職先は文字が読めなくてもできる力仕事になる」など、私生活で当たり前としていたことが大きく影響していることに学生は気づき出しました。

頭では多くのことを想像できませんが、実際に文字が読めない体験もしてみました。ネパール語で書かれた3本の薬(水)が目前にあり、病気になる家族のために薬を一つ選ばないといけません。学生は戸惑い、薬をなかなか選ぶことができませんでした。結果、薬を選ぶ判断基準は自分から一番近いもの、人が多く集まっているところ、ラベルの色、おいでした。しかし、得られる情報は全て不確定で不安だった気持ちを共有し、改めて文字が読めること、教育の大切さを「世界一大きな授業」を通して学ぶことができました。

現在、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科には12名の留学生が在籍しています。国際色溢れる教室の中から、ホテルという国際的な社会へと羽ばたいていきます。ホテル学科では今後も国際理解への学びを深め、学生一人ひとりが多文化社会で活躍する青年へと成長することを願ってさまざまなプログラムを実施していきたいと考えています。



- ファミリーウエルネスセンター ☎078 (241) 7202
- YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078 (241) 7237
- ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
- 専門学校 ☎078 (241) 7203
- 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
- 三田YMCA ☎079 (559) 0075
- 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
- デイキャンプ&コミュニティーサービス(兼キャンプ事務局) ☎078 (241) 7216
- 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204
- ウエルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401



Information

- 西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
- 西神南YMCA ☎078 (993) 1560
- 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
- YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
- 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
- 西神戸YMCA保育園 ☎078 (792) 1011
- 神戸学園都市YMCAこども園 ☎078 (791) 2955
- YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
- ちとせ保育ルーム ☎078 (732) 3542
- 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705
- 西宮つとがわYMCA保育園 ☎0798 (26) 1016

2015 神戸YMCAサマーキャンプ好評募集中!!

青い空、広がる海、雄大な山、清らかな川。
 大自然での仲間とのキャンプが、子どもたちのこれからの人生で大切なことを全て学ぶことができます。そして、子どもたちに楽しさや勇気、かけがえのない仲間を与えてくれます。
 この夏、冒険に出てみませんか？
 神戸YMCAでは、様々なキャンプを準備し、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



宝塚バザー報告

5月とは思えない陽気に恵まれた5月28日(土)、第28回となる「宝塚YMCAチャリティバザー」が宝塚市逆瀬川にて開催されました。会館をもたない宝塚YMCAですが、ワイズや昔からのつながりある人、多くのお支え、参加をいただき「リユニオン」を感じる一日となりました。このバザー収益はYMCA国際協力募金や地域福祉のために捧げさせていただきます。



ファミリーウエルネスセンターニュース

今、アツいプログラム「TOPRIDE」

インドアサイクル(室内用自転車)を使用して、心肺機能向上や筋持久力向上を目指すトップライド。トップライドは自転車をみんなでこぐ喜びがあります。音楽に合わせてウォーミングアップを経て、山あり谷ありレースあり…。途中から汗がどんどん流れ落ち、身体の中の悪いものが全て出ていくような感覚になります。中道理事長もオススメのプログラムです！ぜひファミリーウエルネスセンターでご体験ください。着替えは忘れずに。



2015年度 ボランティア奨励賞

5/29(金)に行なわれた総会の席で次の方々の表彰がありました。

渋谷 和之さん (カレッジ)

2012年、神戸YMCAランゲージセンター日本語教師養成講座を卒業後、日本語アシスタントティチャーとして、PHD協会国外研修生の日本語研修コースで日本語教授を努めてこられました。また神戸YMCA学院専門学校日本語学科初級クラスの学生対象に行っている日本語サポートプログラムでは、日本語を話したいと願う学生たちに、放課後の時間を利用してサポーターとして活躍されています。来日して間がなく、日本の生活にも慣れない外国人学生に対して、丁寧に、そして真摯な態度で接する様子は、学生たちに安心感をもたらし、日本語学習のモチベーションを継続させる要因のひとつとなっています。また卒業する学生たちの制作発表会にも参加され、学生たちひとりひとりに日本語学習の成果を伝えています。



YBBボランティアリーダー一同 (ファミリーウエルネスセンター)

三宮会館移転に伴い、長年活動してきた体育館からKRACに会場が変わったが、新しい環境下でもボランティアリーダーが率先して、メンバーとバスケットボールを楽しみ、またプログラムにも様々な工夫をもって取り組み、その結果、確実にメンバー数を増やしている。何より、メンバーだった方がリーダーとの出会いの中で、リーダーへと成長し、そのメンバーシップのサイクルが長年続いているYMCAプログラムである。

白井 光太郎 (LIT・震災ボランティア)

現役高校生として、東日本大震災以降、積極的に支援活動を続けている。2014年冬のチャリティイベント、余島クリスマスファミリーデーにおいては、自身が通う六甲高校生徒会、教員に広く呼びかけ、20名を超えるボランティアスタッフを集め参画した。当日は中心となってボランティアをコーディネートし、150名を超える参加者をもてなし、イベントを成功へと導いた。イベント終了後も、課題を受けて次回への展望を語ると共に、今後のボランティアの広がりを期待しつつ活動を続けている。

辻本 比呂美 (ウエルネスセンター学園都市)

Jラケットボールの日常プログラム、交歓会で2年間ボランティアで指導してくださっています。子ども一人一人によりそい熱心な指導をしていただいています。指導していただいたJラケットボールのメンバーの中には高校生になり、その後、青成メンバーとなってラケットボールを続けてくれているメンバーもいます。ラケットボールを通して人と人のつながりを大切にし、ラケットボールの発展に貢献していただいています。

～ 届けたかった この響き 東北へ ～

「神戸 YMCA ベルクワイアー」指揮：阿部 望 ～ 総勢16名、5オクターブのハンドベルを持って、3月20日～22日迄、東北の被災地を訪れました。多くの方々からの「神戸 YMCA ベルクワイアー」の心揺さぶるようなハンドベルの響きを東北に届けて欲しいという声に押しされ、昨年末、思い切った相談したところ、NPO法人東北ヘルプの川上直哉牧師が、喜んでお話を引き受けて下さいました。2015年3月20日(金)～22日(月)を提案したところ、待ってましたとばかり、メンバー16人全員が都合をつけてくれました。クッションを送るためにダンボールを特注し、運送業者に委託。5オクターブのハンドベルは飛行機に積み込みました。

20日(金) 最初の訪問地は若林区の曹洞宗の昌林寺で、本堂が津波に浸かっただけでなく、押し寄せる瓦礫が高速道路を越えられず溜まってしまい、大変苦勞をされた所です。松山宏佑 方丈様から、3.11直後、30～50人の檀家の方々が集まって、瓦礫やヘドロの処理などをされたこと伺いました。翌日のコンサートの打ち合わせを終え、福島へバスで2時間の移動です。

21日(土) 午前中は、福島の郡山南一丁目仮設住宅で演奏会を行いました。支援を殆ど受けることが出来ないという川内村で、自立の為にNPO法人「昭和横町」を立ち上げられた志田会長の世話で大勢が来られました。東北の方々は、寡黙で表情に出さないので、失望しないように。とか、特に音楽グループは非常に難しいと感じることがある、などと脅かされましたが、第一曲目の反応から素晴らしい、アツという間に心を開いて下さいました。心に染み込むような讃美歌に心洗われ、お馴染みの「七つの子」では歌い、「サザエさん一家」のパフォーマンスに大笑いし、快いリズムを愉しみ、いつしか不思議な心の世界に迷い込んだようでした。ほんの一時でも、こんな時を持ってただけで、満たされました。仙台に戻り、津波の跡が残る海岸に降り立ち、足の裏に感じる砂の妙な柔らかさが何とも云えず立ち尽くしたのです。この間、被災地のこと、放射能のこと、被害の状況や現在の復興の様子など、ホットな情報を得、多くを学びました。仙台の昌林寺では、100名ほどの人達で彼岸の法要中でした。終了寸前の読経の段階で、コンサートの時間を気にかけておられた方丈様が、突然、「少し早く読みますので、よろしく！」と口走ったかと思うと、猛スピードで読経を始めたのには驚き、控室の私達は大笑いでした。その後、賽銭箱までも撤去されて会場が整えられ、120～30人程が集まりました。神戸 YMCA 総主事：水野雄二氏(当時)の挨拶文を読み、私達の祈りを込めた「主の祈り」や「アメイジング・グレイス」を解説しながら演奏し、楽しいもの、唱歌、ジャズからオリジナル作品と、広いレパートリーを披露。「大漁唄い込み」ではとても盛り上がりました。聴衆の心が、どのように動き、感じたのか、不思議な世界を彷徨っていたかのような輝くような笑顔を見て、恵まれた時であったと思えました。翌日の朝刊では、「主の祈り」から始めて……と紹介されていたことは、私達の姿勢を受け止めてくれたことに感銘を受けました。終了後は、再びバスで1時間半余り、次の予定地の石巻へ向かいました。ここからは、「お茶っことはずオアシス」の趙泳相宜教師の世話でした。手作りの夕食では、4年掛かってやっと収穫出来たという海鞘(はや)が最高でした。

22日(日) 石巻中央教会での礼拝に三曲のご奉仕をしました。午後、「あたりえ Da Da」には、被災者たちが大勢集まって来られ、やはり、涙、笑いがあがり、ベルに合わせて歌い出した時は、なかなか元気がよくて豊かな時を共有出来、心揺さぶる感動の時でもありました。涙を拭おうともせずに、私のところに来た女性は、20年前の阪神淡路大震災の時は名古屋に住んでいて、神戸にも来られられなく、神戸の人たちと会えたことに感動し、何故か気持ちが高ぶってしまうのだなど云うのです。なお、この度は、村井総主事を始め仙台YMCAの皆さんには、長テーブルを提供して下さったり、最終日にはバスで空港までお送り下さったり様々な場面で、快くお世話くださったことに心より感謝しています。有難うございました。神戸 YMCA ベルクワイアー 指揮者：阿部 望



なお、現地での演奏の様子をネット上で見ていただけます。http://www.nozandringers.com

ワールド・チャレンジ 2015

～ kicking goals for youth empowerment ～

5月25日～6月6日まで世界中のYMCAでワールド・チャレンジ2015が行われました。神戸YMCAも加茂商事(株)様、(株)モルテン様よりサッカーボールの献品をいただき、動画撮影をして世界に配信していますのでぜひご覧ください。

(Facebook:神戸YMCAユース委員会)

